

る」をくっつけたら動詞になるじゃん「食事をする」。だから動詞は動詞で1個だけしかなかったの「する」っていう。「する」それだけ。はい終わり。それだけ。名詞と動詞終わっちゃった。じゃあ、あとは何があると思う。英語って？

New Crown 品詞の話

名詞	→	人・物・事	名詞は固定したもの 変えられないもの
動詞	→	名詞(意味) + 時間	⇒ 動く(動詞)
		写真 + 動き	⇒ ムービー(動詞)
形容詞	→	名詞を説明するための語句	

その他	→	副詞	

動詞	動詞+ing (動名詞)	be助動詞+動名詞 (進行形)	動詞
V	→ Ving	→ be Ving	= V

要するに、結局のところ4つしかないんです。「名詞」と「動詞」と「形容詞」あとは「その他」。これがすごいんだよ「その他」。副詞とか言わない、やっかいなこと言わない。「その他」で終わり。文法説明するときを使う品詞、ね。簡単だよ。ね、まずね、これを今言った形容詞とか副詞とか言ったら、この時点でもうすでに止まっている人がいるはず。僕も止まったくちだからよくわかる。

名詞は言ってくれたよね。わかったよ。じゃあ、動詞は？っていったら、はい、ここにね、名詞というのは、いろんな事を、まあ説明も出来るんだけど、ここにね時間が入るんですよ。動作をするには時間を食うじゃん、必ず。でしょ。写真でパチッと写したら止まっちゃうからそれはみんな名詞になるわけよ。止まったもの。だから、止まったもの、固定したもの、変えられないもの、不変ね、変えられないもの、というのは全部名詞なんです。固定しちゃうの、パチッと。だから動きでも、動いているのをパチッと撮ったらそれは名詞になっちゃうんだよ。動かないから。でしょ、写真、ね。

写真に対してムーヴィーが動詞ですよ要するに。動きを加えるでしょ。じゃ、「動きを加える」というのがどういう事かと言うと、そこに「時間を与える」っていう事よ。時間を与えるとそれが動詞になる。だから、動詞の意味を持っていても動く為の時間が無ければそれは動詞にはならない。

だからこう名詞、この場合、意味ね、中身の事ね。意味と時間があったらそれは動詞になるわけです。要するに写真をいっぱい撮ってそれをつなげるの。そうすると動きが出てくる。ね。ムーヴィーになるじゃない。そしたら動詞になるわけ。こういう事が英語の世界では起こるんだよ。動詞を名詞化するために ing をくっつけて動名詞にする。それをまた動詞に戻す為には、be 助動詞を使ってそこに時間を与える。そうすると進行形が出来る、そういうふうになってるんだよ。

今言ったこの中で全部説明できるんだよ。うん、あ〜ら簡単、4つしかない。で、いいね、このところよく気を付けてね、時間、ポイント時間なんですよ。意味、意味に時間を加えると動詞になる、ね。意味に時間を加えると動詞になる。ま、また何回も説明するんでね、とりあえずまだ品詞の話。

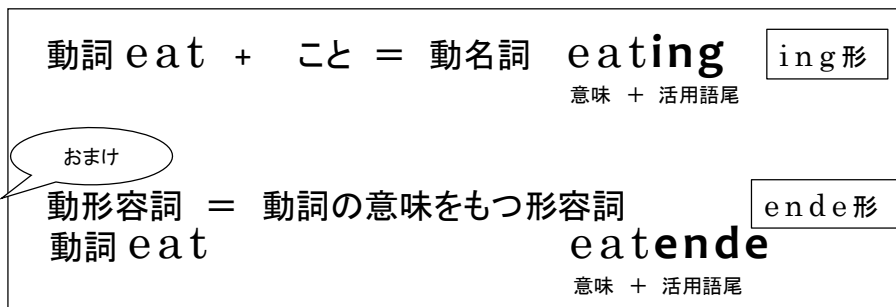
名詞があって、動きを加えると動詞になるよ、っていう話をしました。で、この名詞。名詞の説明、名詞を詳しく説明する。あのね、説明の仕方っていうのは2種類あるの。ちっちゃいもの1個の物体。1個の物体をどんどんどんどん長くして説明していく方法。それと、もう1個はそれを限定して説明する方法。ね、白じゃないよ、黒だよ。とかね、何々じゃないよ、手足はないよ、とかね、あの〜泳げないよ、とかね。だんだんだんだんちっちゃくしていく。そういう限定をしながら説明をしていく方法と、こいつはこれも出来るよ、これも出来るよ、あれもで出来るよ、と広げる方法2種類のね、説明の仕方がある。どちらも名詞を詳しく説明する為のものだから、ゼーンぶ形容詞。簡単でしょ、名詞の説明、形容詞。名詞を説明するための語句、形容詞。こんだけ。いい？形容詞、これで形容詞できたでしょ？まあ、今中身だけの話よね。

名詞がありました、で、もってこれに時間を加えて動詞に出来ますよ。この名詞の説明をするものを形容詞と言いますよ。今んとこここまでね。そうするとじゃあ、ここで線引きをします。それ以外は、3つ以外、3つ以外を副詞と言います。ね、感嘆詞とかいろいろあるよ。細かく言えば。だけど言わない。ね、こんだけ副詞。名詞「人・物・事」、それに時間を加えて動詞に出来る、でもって名詞を説明するものは形容詞、その他全部副詞、終わり。はい、品詞説明おわり。

ここまで。とりあえずこれを覚えておいて、品詞に関してはね、そうすると、えー、そうすると、えーつとね、動詞があって、動詞の意味を持ったまま名詞にしたい時、とかいう言い方をするの。例えば「eat 食べる」さっきから食べるばかり出るね、食べるに「食べる事」にしたら、さっきの「人・物・事」の「事」に変わっちゃうじゃん。ね、さっきのは動作でしょ。本当は動詞。だけれども、それを「事」にくっつけたら、「食べる事」だから名詞になるじゃん。そうしたらば、動詞の意味を持っている名詞だから動名詞になる。動詞の意味をもった名詞、だから動名詞といえます。その為の記号があって、それが ing 形。

これは活用語尾なんですね。活用語尾。あの、これが意味、こっちが語尾。語尾というのは、単語の尻尾と書きます。語尾。この語尾が変化するので活用すると言います。あの、文法用語では変化することを「活用」っていうんですね。活用する。活用する。変化させること。活用するのは変化。こういうのをちゃんと言ってあげないとダメなんですよ。活用するぞ、っていつてもわからない人があるの。だから、変化させる。ね。だから eat に ing をくっつけたらば、これは動名詞になる。動名詞。

でも先生、ing ってあの〜現在分詞もあるんですけど、とかいう人がいるけれども、ところがどっこい。現在分詞というのは違って、動詞の意味を持っている形容詞を作る為の ende 形というのがあったんですね、その昔。ende エンデ形というのがあった。だから eatende イーテンデ。eat に ende 形をつけると eatende そのままね。そうすると、「食べているところの」あるいは「食べているところで」どっちかになる。「食べているところの犬」ほら犬の説明じゃん。「犬が食べているところで」今食事中という事よ。ね、どっちも形容詞なんだけれども、動詞の意味をもった形容詞、だから動形容詞で



ende形は動形容詞をつくるための活用語尾、ing形は名詞形をつくるための活用語尾。

す。動形容詞、こんな用語ないよ。ないけど解りやすいから作っちゃった。はい、動形容詞が出来る。ね、

だから、ende 形は動形容詞をつくるための活用語尾、ing 形は名詞形をつくるための活用語尾、ね。ところが、こいつ (ende 形) とこいつ (ing 形) で、実は発音が似ているんですよ。え、ende エンデ と ing イング、ちがうじゃない？それは日本人はね。日本人はね。ところが、外国人はもっとね大雑把。まあ大雑把なんか知らない。えーっとね、これにもね歴史があって、英語というのは征服民族の言葉なんですよ。あの、ゴート族とかゲルマン族とかいて、そこら辺のフランス語圏とかの人達なんかを征服していくんですね。そうすると、フランス語しか話せなかったやつに英語を話せていうわけよ。そうするとほら、上手くいかないわけじゃん。ね、だから、いいかげんになってくるの発音が。

そうすると、ende の e というのは [イエ]、エじゃなくて [イエ] [イエ]。ende の de は [デュ]。似たようなものでしょ。で ing の i はイじゃなくて [イエ]、っていうかやっぱ同じじゃん。ing の ng は [ング] なんですよ [ング]。それが [イエング]。[ング] まで鼻濁音っていうんですけど、日本語にもね、鼻濁音ってあるんですよ。その鼻濁音、発音、今ね消えてきているんで、出来ない人がいっぱいいるんですよ。だから、日本語もちょっとずれてきているんだけどね、それと同じ。

そうすると、ende 形の ende は [イエンドゥ]、こんな感じなんです。ing 形は ing は [イエング]、[イング]、だいぶ似てきたでしょ。[イング]・・・ing だけが残る。だから今 ing 形って2つあるでしょ ing。意味だけ残っている。ね、だからちゃんと2つある理由がわかるじゃんここで。こんな説明受けてないでしょ、だから混乱するんだよ。だから ing 形ってまとめて説明されるんだよ。わかるわけじゃないそんなの。調べたら出てくる。17・15世紀くらいかな。出てくるよ ende 形ってちゃんと。

はいとこれは何の話。これは本番の話ではないからね。おまけの話。で、こういうのがいっぱいあるの。こういうのがいっぱいあるのね。で、今日は教科書全部やらないといけないので、とりあえず教科書進めるね。で、教科書進める中で、最後に一応ね、何回かはこれ何回だ忘れた、これ6回ぐらいはやったのね。サンシャイン、ニューホライズン、クラウン、えーっとなんかもう1個。教科書全部やったの。それ全部録画してあるんですよ。で、そこから書き起こしてくれた人がいて、その資料が一応あるので、最後に教科書これ一応終わってから抜けているところがあったら一応補うので、大丈夫だとは思いますが。

で、えーと教科書だね。はい、じゃあ（教科書）1を出してください。1を。この教科書を久しぶりに見てびっくりしたんだけど。あ、教科書ないという人がいたら隣に移ってあげて。もしも教科書ない人いたら見せてもらって。あと古い教科書しかないとかね。はい教科書ガイドでもいいよ、あの～本文載ってるから。本文しかやらないから、大丈夫よ。はい、これですね。毎年ちびちび変わるんでね、毎年でもないか、何年かに1回か。変えなきゃいいぐらいなもん作りゃいいんだけどね。本当そうだよな、変えなきゃいいぐらいなもん作ればいいのに。はい、では最初、一応文章になっている所だけやっていくからね。えーっと、という事は、ここは21ページか。一応ここから文章が出ているんだよね。はい、じゃあ、やりましょう。ま、どっかとんでたらとんでたで2年生とか3年生ででやると思うんで、いいと思います。はい行きます。

で、今日やるのは皆さんは「語句順訳」というのを1個マスターしてもらいます。語句順訳。これは語順訳というのは昔からあったんですけど。語句順訳というのはきちんとしたものがないんですね。語句順訳。で、なんでこれが語句順訳でなきゃいけないかという理由があって、「語」というのは、単語のことですね、単語のこと。1個。単語1個のこと。で、「句」というのは単語の集まり。2個以上のことを句といいます。2個以上のことを句という。これもね、知らない人いっぱいいるんだよ。

句って何って聞かれてわからない。だけれども、そのまま進んでいくわけよ。わかるわけないじゃんね。文法書読んでね、ちゃんと説明しろって。はい、単語が2個以上で、2個以上でひとかたまりの意味を表す。これを「句」と言います。句、句、だから、単語で切るときもありますよ、で、2個以上のまとまりで切るときもありますよ、だから「語句」。「語句」。頭から訳していきますよ、だから頭からの順番ということ順番通りに、書いてある通り順番にね。語句順訳。語句順訳ね。はい。

例えばえーっと、station「station 駅」ですな。これが、駅だけで使う事ってほとんど無いんですね。なんかあるんですね、at the station とかね。これを律義に語順訳だと at / the / station で切らなきゃいけないわけよ。単語で言ったら、こんなの訳とれないでしょ、このまま。とったってわけ

New Crown 語句順訳の話

<p>ご 語 句 順 訳</p> <p>1個 語</p> <p>2個以上 句</p>	<p>単語か句で切るので語句。 頭から訳していくので頭からの順番 ということで、語句順訳</p> <p>文章の終わりは // 斜線2本</p>
<p>語順訳 / at / the / station /</p> <p>語句順訳 / at the station /</p>	
<p>私 ~は</p> <p> ~を</p> <p> ~で</p> <p> ~から</p>	<p>} 日本語はくっつけ方式</p> <p style="text-align: right; background-color: #cccccc; padding: 2px;">くっつけ方式</p>
<p>英語は昔は語形変化 ⇒ 今は順番できめる</p>	

わかんないもん。at の意味だけ見てアッと驚くくらい。何を訳していいかわからないもんね。

at は時間を表す時もあるし、場所を表す時もあるでしょ。本当は「pointing at」ってあって、狭い範囲内だけを指すって決まっているんです。at の意味はね。だけれども狭いところを指すって、いちいち訳せないじゃんそんなの、本当の訳は出来ないじゃん、意味は分かっても。だから訳だからね、ということは、後ろにつながっている一定のまとまりまで含まないと訳は出来ないという事よ。

しかも日本語の優れているところ、これね、これから話をする文法というのは、日本人だけがわかる英語なの。英文法なの。だから日本人が一番得意としていることを中心においた文法だからみんなわかるの。普段使っているから。いい？ところが外国にはそれが無いの。早い話が格助詞の話は今しているんだけど、格助詞ってあるでしょ。あの～僕らちゃんと書くんですよ。誰々は、何々を、どこどこで、何々からとか全部書くじゃんこういうの。こういうのを書かないでいい部分があるのが英語なんです。「は」って書かないじゃん。「I」にしちゃえば「私は」の「は」は含まれるじゃん、ね。

言葉には2種類あるんですよ。この「は」を言うときの表し方が、本当は何種類もあってもいいんだけど。ひとつは単語自体を変化させる、単語自体を変化させる。例えば「私」ってあるでしょ。これに「は」が入っている事にするよ、っていう時はこいつを縦長に書くって決めるの。はい、これ書いたら「私は」の事、ね。じゃあ、横長に書くとするこれは「私を」の事。でも私しか書いてない。これだっけわかるわけ。だけれども人によってサイズが違ったりするじゃん、ね。あと色を変えてもいいよね。私を赤にしたらこれは「は」の事ね、私を黒にしたら「を」の事、「を」がくっついているところという意味とかね。そういう訳があるんですよ。

あともう1個はね、順番。順番でそれを決めるという方法があるんですよ。それは数字もそうでしょ。数字って1番右が1の位じゃん。2番目が10の位、3番目が100の位、なんで？なんでか不思議に思わない？2番目が1000の位でもいいわけよ。うんってなかなか言わないね、いいんだよ。じゃ、こうすればいいの。例えば1cmの高さのものを1の位にするでしょ。じゃ、2cmの高さのものを10の位とするでしょ、3cmの位の高さの数字を100の位とすると、そうするとバラバラに書いてもみんなわかるじゃん。高さが違うから。だからこれが語形変化です。語形変化させることによってルールを決める。それもありませんだよ。だから、語形変化とあとはくっつける。

日本語はこのくっつけ方式なんです。だからね、くっつけ方式というのは、自由自在なの。順番も。だから、どこにあっても自由に僕らは訳ができるんだよ、日本語は。ところが英語はね、昔、それを語形変化でやっていたからできたんです、自由に。ところがね、それが無くなったの。さっき言った征服民族の言葉だから難しいこと、七めんどくさい事はもうわかんなくなっちゃったの征服されている方は。だから順番で決められるように統一されちゃったの。

だから今はIとかmeとかあいうのは無くても通じるんですよ。順番が決まっているから、もう。本当はあれは消える運命にあるんですよ。I使わない時代が来るかもしれない。全部meで統一されていく、それでも成り立つ今の英語。順番で決まっているからね。だから数字と同じです。だから数字と英語でいう、あの～文型って言うんですけどね、単語の順番が決まっている、文型と言うんですけども、あれは同じ仕組みなんです、実は。知らなかったでしょ。算数の数字の並び方と、英語の文法ね。

深いところでは同じなんですよ。

で日本語ではこれが残っているんで自由自在。その自由自在のほうを上手く使うと、英語を簡単に理解出来るんです。ところがそれをね使わないでみんな勉強している。だからねこんがらがります。文型いっきに覚えろとかね。今なかなか文型覚えさせる事は無いんですけども、僕らの時代にはそれを覚えなければいけなかったんでね。その勉強もしなきゃいけない。いけなかったんですね。あ、まだ1行も進んでないじゃん。あ、30分、時間かかるんだよな。よいしょ。

Lesson 1 I Am Tanaka Kumi 田中久美です。よろしく

教科書 p21 動画 : Donglish_for_Voice_01-2 h 37m. mp4 経過時間 : 0:20:16

GET Part 1

教科書 p21 動画 : Donglish_for_Voice_01-2 h 37m. mp4 経過時間 : 0:20:16

はい、行きましょう。行きます。21 ページです。

Hello. //

こんにちは //

「I」ここから行きますよ、I で線をいれて、はい。今からね「I」って言って英語を読んで訳を言ったらば、ここで必ずスラッシュを入れます。いい? 「I 私は」っていったらもうスラッシュ入れなきゃいけないよ。「am ある」訳を言ったでしょ今、だからここでスラッシュ入れるんだよ。

am の訳って知ってる? 「ある」しかないんだよ、ある。「は」とか「です」とか思っている大バカ者いる? ひょっとして。もうね、地獄に落ちろですよ。Go to hell って言うんですよ。いいですか。am、こいつはね「存在している」という意味なんですよ。am の訳って。だから、日本語でいうと「ある」、全部「ある」です、全部「ある」。どんな訳でも「ある」。で、

be というのは、これ (am)be 動詞のひとつね、be 動詞のひとつなんだけど。原型が be です、原型。元の形が be という形なので、これは「ある」という意味しかありません。で、be には助動詞と動詞と 2 つ使い方があって、助動詞。まずこれを教えてくれないところがあるんですね。助動詞と動詞と 2 つあるんだよ、とね。これ言ってくれない先生がいるんですよ。いけませんね。それを言わないと、混乱するんです。be 動詞には、助動詞の使い方と、動詞の使い方が 2 つあります。

じゃあ、助動詞って何かっていうと、単語 1 個では動詞になれない。単語 1 個では動詞になれない。

New Crown 語句順訳の話

am	存在している=ある				
be 動詞	<table border="1"> <tr> <td>be - 助動詞</td> <td>単語1つでは動詞になれない</td> </tr> <tr> <td>- 動詞</td> <td>動詞になるのを助ける言葉</td> </tr> </table>	be - 助動詞	単語1つでは動詞になれない	- 動詞	動詞になるのを助ける言葉
be - 助動詞	単語1つでは動詞になれない				
- 動詞	動詞になるのを助ける言葉				
スラッシュ	スラッシュ	スラッシュスラッシュ			
I / am / Tanaka Kumi. //					
私は / ある / たなかくみ (で) //	くっつけ方式				

何かこいつにくっついてないといけない。そしたらやっとな動詞になれる、っていうのが助動詞っていうんですね。助ける、動詞になるのを助けることができる品詞。詞。これ（詞）はね、1個だけで「ことば」と読みますからね「ことば」。この詞というのはね「ことば」。枕詞とかいうのね、枕詞。古典ね枕詞。歌のあの「ことば」です。で、こっちはこれ1個だけで動詞の意味がある。だから、「私は / ある」「私は / ある」ね、これスラッシュといいます。こいつをスラッシュといいます。

「スラッシュ」だからこの事を「スラッシュリーディング」って言ってる人もいますけれど、スラッシュリーディングで引くと、ある程度のことは載っているんだけど、全部は載っていないのね、厳密に最後まで定義をしているところはありませんでした、僕が見たかぎりではね。なんで、中途半端なものなるべく使わないほうがいいです。はい。

I / am / Tanaka Kumi. //
私は / ある / たなかくみで //

「たなかくみで」これがポイントです「で」。これがつくんです。自動的に

I / am / Tanaka Kumi. //
私は / ある / たなかくみで //

こういう意味。この「で」が語順のもっているルールなんです。さっきほら、日本語だとくっつけ方式ですよって言ったでしょ。それが英語の場合はくっつけ方式じゃなくて、be 動詞、be 動詞のあとに、前と同じやつが、前とおなじ主語ね、主語と同じものが詳しく書いてあったら、そいつを「で」っていうように表すんですよ。日本語では「で」をくっつけて訳してね。

I / am / Tanaka Kumi. //
私は /ある /たなかくみ「で」 //

なんの違和感もなし、はいここまで。これすっごく大事なんですよ。「私は / ある / ~で」こんだけ。で、みんなこれスラッシュ入れていって下さいね はい。で、

Pardon?って言っています。Pardon?ってなにかっていうと、「許して下さい」っていう意味です。突然許して下さい、突然許して下さい、びっくりするよね。なんでかっていうと、相手に時間をとらせて「もう1回言ってね」っていう意味なんです。だから「ごめんね、時間取らせてごめんね」だから Pardon?っていう。許してね。相手の時間を割くことをとっても嫌うんですよ。あの一外国の、そう特に英語圏の。だから最初に「どうもすみませんね」っていうんです。

Pardon?	= 許してください
Pardon me to disturb you?	⇒ もう一回言ってね
	意訳 = 学校訳

そうすると、「もう1回言って」っていう意味になるんだよ。意味にだよ。だから pardon? はあくまでも、許して下さい。だから pardon me? なんだよね、本当は。pardon me? なの。「許して下さい私を」なの。こうこうする事を、お邪魔する事を to disturb you なんですよ、本当はね。pardon me to disturb you ? なんですけれども、これを全部ひっくるめたのをカットして pardon? だけ出来てるわけ。

だから会話から入っちゃダメなんです。いっぱい説明しなければいけないじゃん。それなのに、これをまるまる覚えさせて、しかも全く意味の違うことを覚えさせるんだよ。Pardon? っていうのは、許して下さい、なのに、「もう一度お願いします」とか覚えるわけです。意味通じるわけじゃないじゃん、そんなの、ね。だけどしようがないから、これね、訳の事で言いますけれども本当の訳というのが、今言った「許して下さい」ですね。「許してね」でもいい。「許してね」とかね「ごめんね」でもいいし。で、これが訳だと、「もう一度お願いします」とかいうふうになっちゃうでしょ。

これは何かっていうと、これを「意識」と言います「意識」。そこの状況に合わせた日本語で言うとなんか、と。ね。この意味は本当はまあ pardon って書いたんで pardon、pardon? これフランス語から来たんですかね? パルドン、パルドンね。pardon? って言うんですけども、それが「許して下さい私を」って本当は続いているんですね「pardon me」私を「許して下さい私を」ね。to 不定詞「これこれすることを」なんだけども、それをこれだけしか書いてなくて、この状況だと「もう一度お願いします」「もう一度言ってください」という意味になるから、こっちを訳を書いて下さい。これを意識と言います。

これを学校では正しい訳だとするんで、これを「学校訳」といいます。「学校訳」つまり、テストの時には学校ではこう書かなきゃいけない訳、そういうのが時々あります。それは言っていきますから、テストの時にはそう書いて下さい。ただし、自分で勉強するときには、それ全部無視して下さい。そうしないと混乱するから、ね。学校用の頭と、本当の英語の頭とちゃんとちょっと分けて下さい。そうすると楽です。ね、そうしないとね混乱する、で応用が全く効かなくなります、ね。だからどっちも知っていきやならない。それをね、混乱するから教えないという人がいるんです。それは逆。教えないから混乱するの。ね、当たり前じゃん。教えないから混乱するの。で、ちゃんと教えたら応用が利くようになるんですよ。Pardon me? があとから出てくるから、そしたらわかるじゃん。これでも使えるじゃん。

Good Morning だってそうだよ。Good Morning。昨日もちょっと話したんだけど、Good Morning だってね、「おはようございます」じゃないもんね、「良い朝ですね」じゃん。Good morning だったら Good も Morning も使えるじゃん。けども、「おはようございます」という訳をしたら、Good morning 何にも使えないじゃん。応用効かないじゃん。そんな中で今みんな勉強しているからね、頑張っってね。

はい、で、この訳についてもちょっといくつかね。そこのポイントになったら話をしていきます。本当の和訳と、学校訳と、あの～どっちを覚えたらいいかとかねそういったのも話をしてくんでね、ま眠らないでいればどうにかなると思います。よっこいしょ。で、ここまで来たね。

Pardon? //

もう1回お願いします。//

Kumi. K-U-M-I. //

そうしたら、くみ。ゆっくり言ったの。K-U-M-I. ってスペルまで言ってくれる。

KUMI だよ。あ、くみ、ね。確認ですね。で、

I / am / Paul. //

私は / ある / ポールで //

この最後のところだけ、2本線//しなきゃ、え、最後のところは、先生は2本線を入れます。別に1本線でもいいです。先生は、文が終わるという意味で2本線をピッピと入れるんだけどね。どっちでもいいです。で、

Paul Green. //

ポールグリーンです //

正式名称でポールグリーンです。もう1回言ってます。これだって当然、I am Paul Green. ですよ。このI amも2回目だから言っていないのね。で、省略がものすごく多いんですよ。同じ事を2回言うっていうのを嫌うんですね、英語って。だから代名詞が育ってきたんですよ。いろんな事があったのに、代名詞、つまり it とかね、人称代名詞、人の代わりに he 彼とかね。そういった代名詞をいっぱい使うようになりました。

だから、長文になった時に、逆にそういった代名詞、特に they とかねいうのは気を付けて、元は何か？車がいっぱいあっても they だからね、ね。they っていうと突然、人だと思っちゃう人がいるじゃん「彼ら」。ところが、机がいっぱいあっても they だ。they というのは三人称の複数を表すだけだから、それ気を付けて下さいね。よく引かかる人がいるんです。they って書いてあるから、人ばかり探していたら、答えが車だったとかね。いろいろあります。気を付けて下さいね。で、

Nice to meet you, Paul.

これもそうですね、これ、主語がないじゃん、どこにも、う〜ん1回探そうと思ったけど無いもんね。で、主語が無いのは日本語ぐらいで、みんなこの国でも主語はたいてい書いてあります。ところがここには書いてありません。無いっす。それなのに、一年生の最初にこうやって出るんですね、もう、大変。meet you,・・・で、

New Crown 1 p21

Nice to meet you, Paul.

コンマの後ろは呼びかけ

疑問文か。疑問文どうしよう。一気にやるかなあ、まだ早いか。あとで疑問文はえーと、時制というのがあるんですよ、現在形とか過去形とか未来形とかあるでしょ。あの～もう皆さん、英語は少しはかじっているんで、あと、現在形、過去形、未来形、あと進行形とか、完了形とかいろいろあるでしょ、いっぱい。それをまとめて、全部まとめて一気に疑問文にするとかね、みんなまとめて一気に否定文にするとかね、しかも1行で。とかいうのを後でやるんでその為にちょっと取っておきますね。これはここだけで説明します。それやるには画面が小さいな、いいかな。うん、はい行きますよ。「あなたは～です」と書いてあるね。

★POINT

I / am / Ken. //

私は / ある / けんで//

「私は / ある / けんで」これだけでもね、ずいぶん得するんだよね、amを「ある」ってちゃんと訳が取れるとね。そうすると、昔々、その昔、すべての疑問文は動詞を、まあ動詞ってあの～動作をする内容ね、意味のある、動きを表す単語ですね、そいつを主語の前に持ってきたら、それだけで疑問文になっていました。それだけで全部。だから例えば、あ、これHeじゃなくてkenにしようかな。

Ken / goes / to school / everyday //

ケン / 行きます / 学校へ / 毎日 //

というのがあるとするでしょ、これ、書いても書かなくてもいいですよ。聞いているだけでも。そうすると、昔はこれ (goes) が動詞なんで、これを前に出すだけで疑問文になっていました。簡単じゃんね。

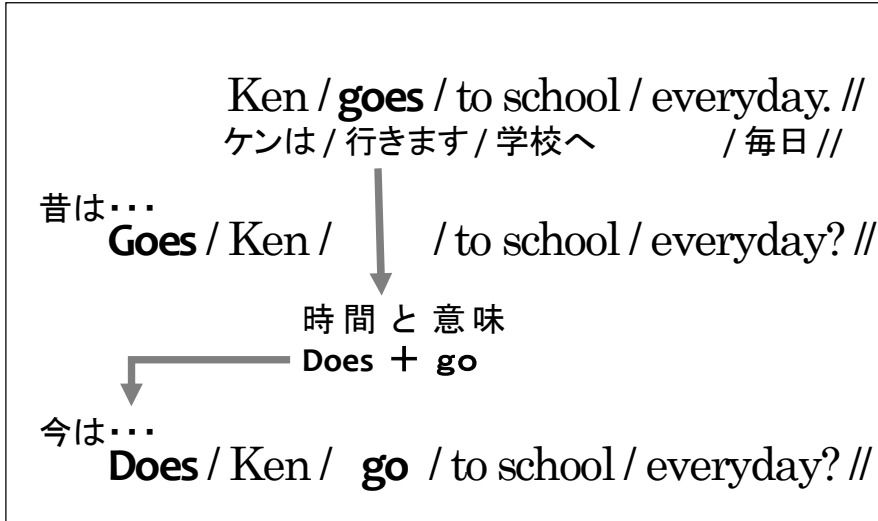
Goes / Ken / to school // こんだけ。

Goes / Ken / to school / everyday // とこれで疑問文になっていました、昔は。

だってそれだけが唯一疑問文にするための法則。動詞を主語の前に出す、それだけ。全部。それだけだったの。今違うでしょ、ね。今どう違うかと言うと、こいつをね分割するんですね。こいつを分割して、Does と go つまり時間と意味、ほらさっき言ったじゃない？動詞って時間と意味から成り立っているよって話言ったでしょ。そこが生きてくるんです。これが時間ね。時間を表す助動詞ね。こっちが意味ね。で、時間を表す助動詞をこっち側に持ってくるんです。そうすると、現代英文法になるんです。

Dose / Ken / goes / to school / everyday? //

これが今使っている、みんなが使っている。で、その、むかし昔の形をまだ引き継いでいるのがbe動詞なんです。だから特別扱いされる。だからbe動詞と一般の動詞と分けて考える。ね、動きが違うから。14世紀ぐらいの動きが残っているからbe動詞は。あとはね、現代英文法にのっつて、時間と意味に分けなきゃいけない、必ず。そして時間帯を指定する助動詞を前にもってくるというのは、生き



ているんです、そのままね。なんで、この2種類しかないんです。それを一気にやれる。やろうとする
と。

で、すべての文法が同じことを指しているんで、24 時制、全部一気に疑問文と否定文を作ることが
できます。はい、で、

Are you from Australia.?

そうするとここに書いてあるのが、You are from Australia.これが平常文、普通の文章ですね。

You / are / from Australia. //

あなたは / ある / オーストラリアからで //

from ~、from ~、from ~、これ前置詞といいます。前置詞。前置詞ってなに知っていますか？
聞くよ～って聞かないんだけどね。はい、前置詞って、ものすごく大事な言い方なんで覚えて下さい
ね。これは「前に置く詞（ことば）」。前に置く言葉だから前置詞といいます。

じゃあ、なんの前に置く言葉かわかんないやいけ。はい「名詞の前に置く言葉」、これを前置詞
という。名詞の前に置くことば、それを前置詞という。from とか on とか at とか to とか in とかいろ
いろあります。それは前置詞を調べればバーっと出てくる。すごく大事なんですね。これが全部日本語
では後置詞になります。ここがポイントなんですね。

はい、これが名詞ね。名詞、ちょっと四角で書きますね。すると日本語だとこれが一気に後置詞にな
ります。はい、日本語だと後置詞になります。簡単じゃん。英語の前置詞、日本語の後置詞。終わり。
前置詞これで征服。「え？マジ？何言ったの」って今思ってるでしょ。大事なこと言ったんだよ。

英語の前置詞はすべて日本語では後置詞になります、後置詞。「先生、後置詞ってなに？私知らない」
こんな文法用語ありません。後置詞。ここに名詞があるでしょ、この後ろにつく後置詞。これほん

前置詞 → 名詞の**前**に**置**く**詞** (ことば)

You / are / **from** Australia. //

あなたは / ある / オーストラリア**から** で //

<point> 英語の前置詞は、すべて日本語の**後**置詞

とはね、後置詞は格助詞なの。この場合には「から」、「～から」のから。from だからね。～から。～から。だから「オーストラリアから」です。この「から」がfromの意味ねfrom。「オーストラリアから」from。これこうなっているでしょ。

この蓋、蓋が前置詞。英語だと前置詞。はい日本語だとはい後置詞。こんだけ。いい？全部ですよ。例外なしだよ。全部、どんなに難しい英語でも、大統領の演説でも全部そうだよ。これ知っているだけで恐れる事は無いんだよ、もう。他に無いから。これ以外にあるって言ったらそいつは偽物。英語知らんやつ。いい？

じゃあこの後置詞、いったい何者か？という、はい格助詞のこと。日本語の文法でいうとね。日本語文法で言うとなら格助詞のこと。まあ、とにかく名詞の後ろにくっついてるやつだからいろいろ出ますね。「～から」例えばさっき言った駅ね。駅だったら「駅から」とか言うじゃん。「駅で」「駅へ」「駅は」「駅の後ろに」「駅に向かって」「駅のちょっと上に」全部、全部後置詞。

それは日本語で言っているからであって、英語にすると全部前置詞になるんだよ。前置詞征服じゃん。いい？なんでこんなこと教えないんだろうね。こんだけじゃん、はい。じゃあ、今どこまで行った？from、あーfromの話始めたんだよ。はい、えーそうすると、これを疑問文にする。

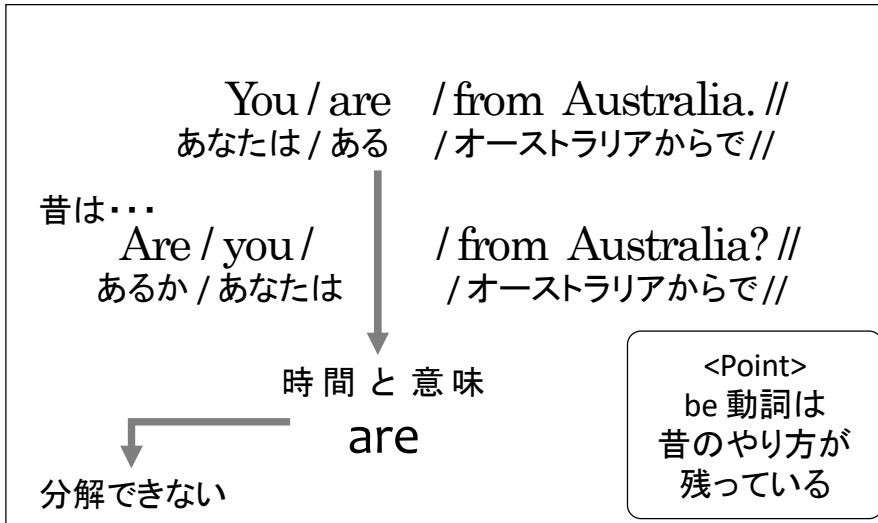
はい、さっきの考えでbe動詞使われているんで分割できない。やりたいけど出来ない。じゃあ、そのまま移していいんだね、はいそうですよ。じゃあ、あとは、決まりに従って、一番先頭大文字だからAre。そうするとこのままYouがおりてきて、だけれどもこれが小文字になる (you)。

Are you from Australia? でクエスチョンマーク。これピリオドね。これピリオドと言います。日本語いう「。」のことね。ピリオドがクエスチョンマークにかかります。これ気を付けてね。

Are you from Australia? よしいいかな。じゃあ、23ページです。

Hi. //

Hi は「ハイ」ですね。

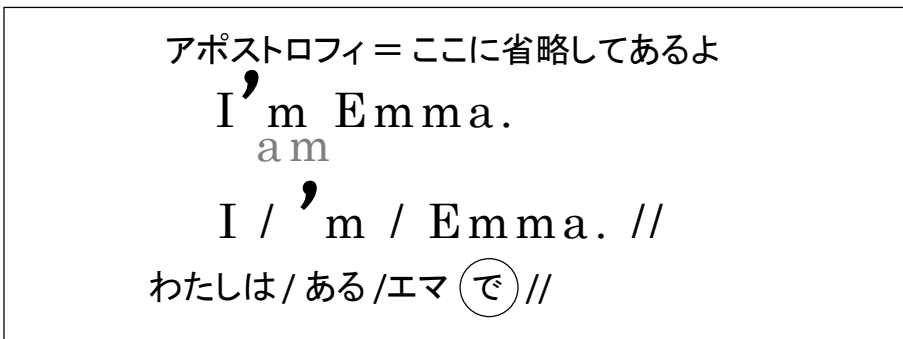


I ' m Emma. //これ上にチョンとあるでしょ。I ' m Emmaの上チョンね。これはアポストロフィといいます。I ' mの「'」ね、これはアポストロフィといって、これは省略がありますよと。省略してあるよという事です。ここに省略してあるよ、縮んでいますよ。だからこれは、I amなんだよ。ねI am。ですからここに線を引かないといけない。ちょっと難しいよね。こうなる。I / ' m / Emma. //I ' m Emma. こうなります。

I / ' m / Emma. //

私は / ある / エマで //

だから、要するに be 動詞っていうのは意味がほとんど無いじゃん。「ある」っていう意味だから。I と Emma だけでわかるじゃん。I / Emma. I だって、ここにいるから本当は言わなくてもいいわけよ、Emma だけですむわけじゃん。だからね、こういうふうに短くなったりするのね。だけど文法的にちゃんと解釈しようとする、ちゃんとスラッシュ入れなきゃいけないんで、ちょっとごめんなさいよ、ってこうやって入れてね。



I / ' m / Emma. //
私は / ある / エマで //

You / are / Ken. // Right? //
あなたは / ある / ケンで // そうですね、間違えないですか? //

Right?は「その通りです」「あっている」

Am / I / Right? //
あるか / 私は / 正しく //

だからこの「Right」1個でも、「Am I Right?」書きますね「Am I Right?」。この事ですよ。「あるか私は正しく」「あるか私は正しく」ですよ。こんな感じね。で、

日本語の場合にはこれもくっつける。日本語ってね、くっつけ方式なんです。だからね、昔から変わらないし、自由自在なんです。「ある」に「か」をくっつける。疑問文には「か」をくっつけなければいい。「食べる」に「か?」をくっつけたら疑問文になるでしょ?「食べるか?」ちょっとぶっきらぼうですけどね。疑問文ですよ。「か?」をつければいい。簡単だね。くっつけ方式ってね、すごくね利便性が高いんです。便利なんです。「あるか私は正しく」ね、はい。

Right. //
そうですよ。 //

今度は、今度のRightは
You / are / Right. // だよ
あなたは / ある / 正しく // だよ。どっちも同じなんだよな、書くと。
You / are / Right. //
あなたは / ある / 正しく // ね、こんなのわざわざ書くのかな、と思うけどね。で、その次。

Are / you / from Australia? //
あるか / あなたは / オーストラリアからで// いいね、スラッシュ、自分で入れていって。
Yes, / I / am. //
はい / 私は / ある //
Are / you / from Sydney? //

New Crown 1 p23 Right?

<h2>Right?</h2> <p>Am / I / Right? //</p> <p>ある(か?) / 私は / 正しく //</p> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">くっつけ方式</div>
--

あるか / あなたは / シドニーからで //
No, / I / ' m not. //
いいえ / 私は / ない

「am not」これでひとつだからね。これで「am not ない」これ「ない」よ、「ない」。なんで？「シドニーからではない」の省略。ちょっと書きますね。こういうのもね、会話だから勝手に省略されているだけで、本当はいけないんですよ、最初の中1にこんな言い方をさせては。だから、ここからね。

Are you from Sydney? って書いてあるでしょ。そしてNoがあつて、I' m not. って書いてあるでしょ。で、I' m from Canberra. はい、書いてありますね。はいここで。

Are / you / from Sydney? //
あるか / あなたは / シドニーからで //

No, / I / ' m not. //
いいえ / 私は / ない //

ね、「ある」の否定だから「ない」なんですよ。「ある」の否定だから「ない」。not というのは「違う」という意味、「違う」。これが「ある」でしょ。「あるじゃないよ」だから「ない」これだけ。「あるじゃないよ」だから「ない」。カッコしておこうか。「あるではない」「あるではない」だと混乱するじゃん。だからないって言ってるだけなんです。私はない」ここで。シドニーからではない。で、改めて。

I / ' m / from Canberra. //
私は / ある / キャンベラからで //

キャンベラからで、改めて正確に言ってる。こういう事です。ちゃんとここわかってないとダメですよ。ちゃんとここは「ない」ってちゃんと訳をとらないと。はいこんだけ。あとは書き方だけ気をつけて。

No, / I / ' m not. // I / ' m / from Canberra. //
am not am
あるではない で
⇒ ない
<つけ方

◇◇◇教科書本文◇◇◇

Hi. // I / ' m / Emma. // You / are / Ken. // Right? //
こんにちわ // 私はあるエマで // あなたは / ある / ケンで // 間違えないですか? //

Right. // Are / you / from Australia? //
そうですよ // ある / あなたは / オーストラリアからで //
Yes, / I / am. //
はい 私は / ある //
Are / you / from Sydney? //
あるか / あなたは / シドニーからで //
No, / I / ' m not. // I / ' m / from Canberra. //
いいえ / 私は / ない // 私は / ある / キャンベラからで //



GET Part 3

教科書 p25 動画 : Donglish_for_Voice_01-2h 37m. mp4 経過時間 : 0:44:40



はい、じゃあ、25 ページ。また省略か。はい。

I / ' m / tired. //
私は / ある / 疲れて //

tired「疲れている状態で」という事。「tired 疲れている」新しい単語は1個ずつ覚えるしか無いんで、それは覚えて下さいね。「tired 疲れている」疲れている状態を指します。

Are / you? //
あるか / あなたは? //

これは後ろは当然 tired が抜けてるんですね。「あるかあなたは疲れて？」

No. // I / ' m not / tired. //
いいえ // 私は / ない / 疲れては // 「疲れてはない」だから「疲れてない」

But / I / ' m / hot. //
しかしながら / 私は / ある / あつく // これ (hot) も状態を言っていますね。形容詞ですね。

Really? //
本当ですか? ・あそうなんだ //

Here you are. //

で、これは、この Here は here っていうのは、元々「ここに」っていう意味ですね。there が「あそ

Here / you / are. //

Here / you / are / served. //

ここに・はい / あなたは / ある / 提供されている //

⇒ はいどうぞ

意識 = 学校訳

Thank / you. //

I / thank / you / for ~. //

私は / 感謝する / あなたに / ~してくれて // ⇒ ありがとう

意識 = 学校訳

こに」。だけれども、「はいどうぞ」の「はい」にあたります。「はいどうぞ」「さあどうぞ」とか言う。「さあ」とか「はい」とかいう時にも使う。で、Here you are. you are これは you are served. と後ろに本当はつくんですね。あなたは提供されている。

Here / you / are / served. //

はい / あなたは / ある / 提供されている //

serve というのはこれは「提供する」という意味です「提供する」。でここ、まあ受動態とかいって難しいんで後で説明しますが、「提供されて」という意味ですね「提供されて」「提供されて」だからなんか物を差し出さして、その人の目の前に出す時に「はいどうぞ」と言うんだけど、日本語ではね「はいどうぞ」。だけど、中身は「はい、あなたは提供されています、これをね」差し出すの。そんな時の言い方です。ですから Here you are. で物を目の前に出す。という言い方。提供されていますよ、はい、ここにありますよ。そういう意味です。で、

Thank you. //

Thank you も本当は I thank you. なんですよ。これ知っていましたか？はい、「私は感謝するあなたに」こういう意味です。Thank you 「ありがとう」という意味はどこにも無いです。Thank you にね。

I / thank / you. //

私は / 感謝する / あなたに //

で「理由の for」といって、これこれしてくれて、っていうのが本当は後ろにつくんですね、for～ね。

よくあるのが、お手紙ありがとうとかいう時に「私は感謝するあなたに for your letter あなたの手紙が理由で」というふうに使います。これ「理由の for」と言ってよく for を使います。thank も。こ

